

The Japan Interior
Designers Association
Monthly Report
No.249
Jul, Aug, Sept, 2010

JID news

JID月報：通巻249号
平成22年7月・8月・9月号
発行日：平成22年9月30日

発行：(社)日本インテリアデザイナー協会
〒163-1008 東京都新宿区西新宿3-7-1
新宿パークタワー8F
電話 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559
発行人：喜多 俊之

社団法人日本インテリアデザイナー協会

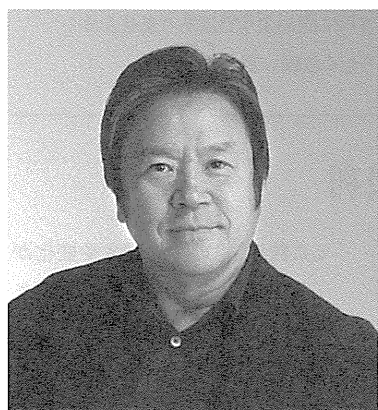
目次

巻頭：理事所信表明(理事長)

理事所信表明	2
〃	3
〃	4
本部報告(選考委員会)	5
本部報告(広報委員会)	5
LIVING & DESIGN 報告	6-8
本部報告(国際委員会)	8
本部報告(総務委員会)	8
支部活動報告(関東事業支部)	9
〃(中部事業支部)	9
〃(関西事業支部)	10
〃(九州事業支部)	11

JIDの新たな門出に	11
事務局からのお知らせ	12
新会員紹介	12

理事所信表明



理事長 喜多 俊之

「家がいちばん大切なところ」ということは、何万年にわたる私達人類の歴史が物語るとおりです。

家の過ごし方は国によっても異なるのですが、基本的には世界のどこでも変わることがありません。家の場所や広さの違いはあっても、そこをかけがえのない人生の舞台のひとつとして活用できることは言うまでもありません。

常々、インテリアは工夫次第で空間が一変すると思っています。いちばん大切な場所をもっと素敵にして、家族や友人達と過ごし、客をもてなす。現在持っている家具や食器、照明器具も考え方ひとつで雰囲気が変わって空間演出が出来るのです。

色彩を意識すると、又これも空間演出の大きな力になります。ちょうど今から40年前、私が初めてミラノに渡ったとき、人々が狭かったところをリノベーションしたり、広いアパートに移り住み始めていました。それを機会に、皆がインテリアに関心をもって、あっという間に家が人々の集うサロンに変貌する姿を目の当たりにして、目を輝かせたことを思い起こします。家に招いた側も招かれた客人たちも一緒になって話に花を咲かせる、そのために台所はシステムキッチンになり壁面収納家具が発達しました。用意していた暖かい料理がタイミングよく出せ、後片付けや収納も良く出来ていました。それは、リビングなどにも展開され、家が素敵なサロンになって、みるみるデザインの国になっていった現場を見たのです。

副理事長 安藤 眞吾



現在の JID にとっての急務は、健全な組織運営です。それには会員の増強が必要であり、魅力ある団体としての情報発信が不可欠です。

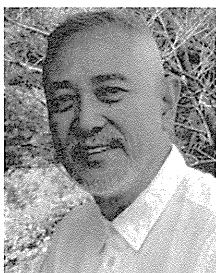
では、魅力ある団体づくりとはいかなるものなのでしょうか？

まず、私は会員のベネフィット(便益)の確立が第1と考えます。公益法人か一般法人かの議論も慎重にやるべきですし、公益を目指す活動も必要ですが、共益(会員にとっての益)になるようなコンテンツを盛り込んでいくことによって、会員メリットが明確になると思うのです。

では、会員のベネフィットとはどういったものなのでしょうか？福利厚生、ビジネスチャンス、デザイン活動のしやすさ、団体活動に対するやりがい、会員であることの矜持など、さまざまな側面から考えることができます。

次期 JID の活動では、これら会員へのベネフィットを「仕分け」して、それぞれを明確に強化できる手法を模索することが必要だと考えています。

副理事長 中田 重克



『私が提案する

次期 JID 活動・運営の趣旨』

50周年を過ぎて現在、協会の経営は厳しい状況にあります。内部的には、会員の減少による財政面の悪化。対外的には、公益法人の問題また、不景気による会員のワークの減少です。会員のメリットを追求して収益事業を拡大すべきでもあり、一般市民の利益となるような事業をしないと公益法人としては成り立ちません。この難局を乗りきる為には、今までの各担当理事の報告に終始した理事会では何も出来ません。今回から、役員全員の賛成を得て理事会第二部の2時間を追加、JID をどう経営してゆくべきかの会議を持つ事にしました。基をただせば、JID という組織の魅力が少なくなっていることです。その為には、理事も会員も分け隔てなく、本当にこの会を存続させる為に行動を共に出来る、戦略的な実行委員会をもって、真剣に JID のこれからの方向性を示し、魅力ある新生 JID をスタートして行くべきだと思います。

理事 石川 尚

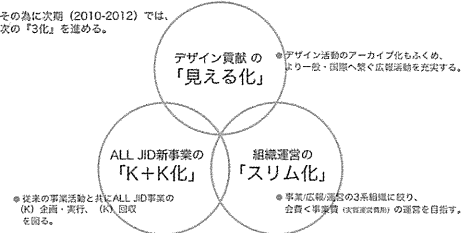
■私が提案する次期JID活動・運営趣旨

石川 尚 20100122

JIDは、インテリアデザインを通じて生活環境の向上、将来性のある環境形成社会に貢献する組織団体であることを志す。創立50周年を終えこれからの50年へ、新テーマを掲げたNew-JIDを展開する。

●提案するテーマ より「内」から「外」へ
— 新デザイン邂逅 —

●その為に次期(2010-2012)では、次の「3化」を進める。



「理事、一年生」です。

私が創立50周年記念出版「日本デザイン50年」編集委員長で、デザイン職能団体 JID 協会とデザイン活動を、より広く世間へ伝える必要性を痛感しました。それはデザインが一般化した今日、歴史と実績がある

にもかかわらず、デザイン界の低知名度でした。

そこで、図に示すように『より「内」から「外」へ』をテーマに、デザイン貢献の『見える化』組織の『スリム化』All JID 新事業の『K+K化』の『3化を進める』を私の理事会活動の所信といたします。皆様と共に協会本来の目的「インテリアデザインを通じて生活環境向上」「将来性のある環境形成社会に貢献する会員活動」「新しいデザインの出会い」をさらに深めようではありませんか！今後ともご協力の程、よろしくお願い致します。

理事 岩倉 榮利



ここ数年、世の中の動きや変化が一段と速くなっているように感じます。

だからこそ一方で、時にはゆっくり考えじっくり取り組むことが一層大切になるのではないかと私は考えています。

「ることにとらわれ過ぎると目先のことに失ってしまうことがあるからです。

近年私たちを取り巻く自然の破壊が急激に進んでいます。それは、人間が目先の便利さを求めて先を急ぐあまりに守らなければならないものを見失っているからかもしれません。

私はこれからも常に本質をみつめ JID のブランド力を高め正しいと信じる道を着実に歩み続けたいと思っています。

理事 小野 由記子



2008年から2年間、初めて理事を担わせて頂き世の中の動向が直に社団法人の運営にも影響を及ぼす事を知りました。

JIDの会員が年々減っている事に対しての危惧もあります。

これからの2年間は、JIDのブランドメイキングのために広報活動に関わります。今はまさに21世紀に相応しいJIDの在り方を探り改革を進める時期です。JIDのビジョンを明確にして社会に広く表明することが求められています。

外部の方々にも「あのJID!」と認識されるほどのネームバリューと会員であることのプライドに応えるJIDを目指したいものです。

職能団体の機能の向上としては、健康保険、損害補償保険、デザイン報酬基準ガイドラインの整備。またインテリアデザイナーのスキルアップ事業、認定事業についても検討を始める時期と思います。

社会的存在としての法人であるためには、生活者に開かれた運営が求められます。JIDメンバーがエネルギーを注いで行っている様々な活動を広くアピールする手段である広報の改革を通して、21世紀型のJIDを進めて行きたいと思います。

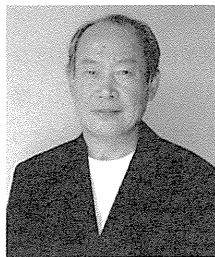
理事 川上 玲子



創立以来50数年の歴史を持つJID活動を基盤に、今後は新しいイメージの構築を考えなければならない大切な時期を迎えていると思う。図らずもこのタイミングで公益法人制度の選択を迫られている。

今期は会員自身が所属意識を持って真剣に考える良いチャンスにしなければならない。会員として所属し、協会活動を行うことの意義を理解し、個人では困難な活動や事業がJIDに所属していることで実現出来る状況を構築することにより、広く社会にアピールして会員の増強につなげたい。特に国際社会に踏み込んで日本人としての感性を生かし、世界の中でグローバルな活動を目指すための企画展開は大切な要素だと考える。

理事 川崎 泰秀



法人制度問題を速やかに且つ慎重に解決することが第一です。この選択に関してより中広い会員の意見を収集し、議論の集中と深化のなかから禍根を残さない確かな方向性を定め、ビジョンを構築し、これに添った事業具体化と活性化に繋げることが、今期から

次期への最重要課題と認識します。処すに易き選択だと一部に批判もあると承知の上で、個人的には自由な立ち位置の一般法人を推します。公益法人のステイタス性と不確かな公的メリットよりも、財務上も大変困難な運営を余儀なくされている現状では、活動・事業の中を狭め、会計基準の厳しさを受け、経理支出も増大する等のデメリットのほうが大であると推測します。公・共・企益などにとらわれずにフリーハンドで、多面的活動が可能な選択をすることが、JIDの置かれた現状ではベターではないかと考えます。

理事 木辺 智子



準会員で入会してから25年、何とか諸先輩たちを目標に自分自身を奮い立たせてがんばってきました。ふと振り返ると私の年代以降の後輩がなかなか参加していただけていない状況をととても残念に思い、また反省をしています。

若い世代の協会離れはどの協会も大変な問題となっているように思います。

インテリアデザイン界を先駆的に支えて頂いた諸先輩たちを見習い、目標となる存在になっていなくてはならないのですが、しかしなかなか到達できないのが現状なのだと反省しています。インテリアデザインでどんなことができるのだろうか?と考え、団体として何かしらの成果を得るような活動をしていきたいと考えています。

中部事業支部では地域の小・中学校の既存の建物に対象を絞り、子どもが多く時間を過ごす学校の環境を考える、「学校の校舍快適構想研究会」を立ち上げました。この研究会では地域・行政に対してインテリアデザイン団体から現状の学校環境の改善などの提言を行い、豊かな心が育つ環境づくりに一役たたいと考えています。何かしらの成果を挙げるという活動がJIDの魅力になっていけば会員増強にもつながるのではないかと考えますし、自身にとっても大変やりがいを感じる事となるでしょう。地域の産業や伝統を守り・伝承していく活動にもなるように考えています。

私の考えとしては今までの活動や今後を考えるとJIDは公益社団法人化を目指すべきだと考えます。

理事 酒井 正人



1. 新組織への対応

公益法人制度改革に伴う JID 組織の今後について引き続き検討をし、歴史ある JID にふさわしく、会員にとって持続的で魅力のある、そして、社会に対し責任と信頼のある組織を目指したいと考えております。

2. JID 活動について

法人格の選択にかかわらず、JID は社会へ公益的な活動をおこなう組織として認知されるべきだと思います。

インテリアデザイナーとして、「生活環境における様々な問題にどのように対応し提案しているのか」この実行が社会貢献活動の基本的なテーマになると考えます。

3. 職能団体としての機能強化

インテリアデザイナーの職能団体として、会員のスキルアップを図るシステム（CPD 制度や認定制度）を今後導入し、社会的な専門性の高さや社会的役割の重要性を社会に広報し、会員の社会的メリットも明確にしていくべきだと思います。またこの機能が入会の魅力につながると思います。

理事 佐藤 健一

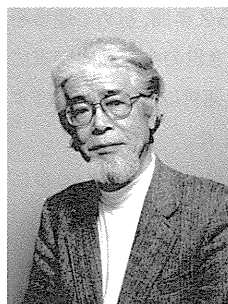


私は理事としてこの2年間に以下の具体的議案を提案し実現すべく努力してまいりたいと考えております。

- 1 本部ホームページの大幅な刷新
- 2 休会制度の確立
- 3 理事選挙制度の更なる改革
- 4 JID 功労賞制度の再検討
- 5 会費の軽減
- 6 新会員の獲得方策

また上記の他には多方面で活躍中の喜多新理事長を全面的にバックアップして、JID の社会的貢献と知名度向上を図って行きたいと考えております。

監事 泉 修二



ここ数年私達が抱えていた状況は景気の回復を待てば良いと云う状況でもなく、黙って忍べば昔の繁栄に戻せる社会環境でもない事は明らかでした。それに対し会員減少、財政縮小の繰り返しだけでは弱体化以外の何ものでもないことを思い、会員として中々判って貰えない嘆きを繰返してきました。

今期選ばれた理事長を始め理事の方々が JID の置かれている状況に関し正面から向い合う体制を整えられつつあり、理事会組織の中にあらかじめ自主的な思考部分としての推進委員会が構成された事も試行とは言いながら光が見え始めた思いです。協会の存在問題と公示されて既に二年を経た新法人制度も思考過程において同じ土壌にあると考え、老人の思考や体力の能力限界を嘆きながらも監事をお引き受けしました。役の限界までお手伝いをさせていただくつもりでいます。

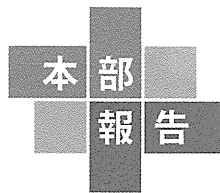
監事 小宮 容一



監事と云う役は、社会経験、人生経験の豊かで公正な、それなりに高齢な方が当たるべき役柄と考えていました。いつまでも若々しい精神でいたいと思っている私も、周りを見ると年嵩になっていることに気が付く最近です。しかし、監事にはまだ、若いかなと思っています。支部

部長や理事の経験の長い私ですが、この役を果たすために、自らのスキルアップが必要と考えています。

JID の監事は、会計監査と事業監査の2つの職務を担っています。「監事」を広辞苑で引くと「公益法人や各種共同組合などで財産および理事の業務執行を監査する機関」となっています。泉監事と共に、理事会の判断に真直ぐなアドバイスでき、JID がより発展・隆盛するよう役職を全うしたいと考えています。



選考委員会

担当理事：川上 玲子
委員長：木村 戦太郎

平成22年度 第1回選考委員会について

本部選考委員会委員長 木村戦太郎

平成22年7月28日(水)18:30～ 選考委員会の第1回委員会を開催しました。

今年度の委員は、岩倉榮利、小宮容一、近藤康夫、川上信二、川上玲子、清水忠男、長岡貞夫、木村戦太郎の8名で、所用で欠席された小宮氏を除く7名が出席した。冒頭で委員長の互選を行い私が委員長に指名された。

私は4期連続となるので固辞したが、結局お引き受けする事となった。

1. JID賞 2012 日程概要の確認

2010.07 JID賞企画(応募要項等)の検討開始

2010.11 JID賞企画・決定

12 印刷原稿・完成

2011.01 応募要稿・発送

05～06 応募受付

07～08 一次審査(書類選考)

08～10 二次審査(現地・現物調査)

10～11 最終審査

賞楯、リーフレットのデザイン・作成

12 展示パネルなどの準備

2012.01 JID賞展示&贈賞式

2. JID賞の内容について

- ・前回、プロダクト賞に受賞作品がなかった点について

広報の在り方の再検討

賞の対象領域の明示など工夫する。

- ・応募作品数の拡大を計る

JID賞の最終審査では、現地・現物審査を実行しており、これらを入選としてはどうか。

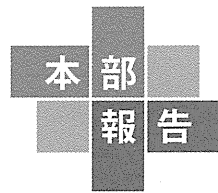
などの意見が出され、次回もこれら2点を中心に、JID賞の改善に向け、継続検討を行う。

3. 特別審査員について

11月には決定する必要があるため、次回の委員会迄に各委員が腹案を持ち寄り検討することとした。

4. 次回 選考委員会

9月22日(水)16:30～ 開催する。



広報委員会

担当理事：石川 尚・小野 由記子
委員長：石川 尚・小野 由記子

JID ブランディングアップを

目標とする広報活動を!

本部広報委員会委員長 石川 尚

この度、本部広報担当理事ならびに委員長を拝命しました石川尚です。同じく理事の小野由記子さんと二人脚で担当理事兼委員長で委員会運営を行います。

さて、新規広報委員会は今年度より喜多新理事長のもと新組織運営を試行します。従来は本部、支部委員会、計5委員会でした。しかし、会員数減少ならびに予算削減、活動の非効率化等、本来あるべき広報活動が円滑に行われていないのが現状です。会員数300名を切った協会の今「JID Newsは協会内の報告書」ではあまりにも勿体ない存在であり、ホームページにいたっては「本部支部に異なる5つのサイト」が存在しています。

そこで、新委員会は、『JIDブランディングアップを目標とする広報活動』を下記の方針で委員会活動進めてまいります。

- ・ JID Newsをより広くより多くの方に伝えるウェブデザインニュースに。

本部支部会員活動のトピックスを中心に、協会内部だけではなく国内外へより広く、多くの方に伝えるウェブデザインニュース移行作業にとりかかります。もちろん、会員総意をはかることから始める予定です。

- ・ ホームページを、時代に沿ったデザインサイトに。

本部各支部のキャラクターを保ちつつ、全体統一をはかり時代に沿ったデザインサイト移行作業にとりかかります。

- ・ JID 活動プレスリリースを定例化に。

従来行われてこなかった本部支部会員活動のリリースの定例化作業にとりかかります。

- ・ 本部委員会を4支部広報(広報関連)委員会運営に。

会員減少の現状下、本部支部組織の横申し化を行い、活動の効率化、情報の共有化をはかります。ただし、各支部が遠路である為、統一活動を実現するには経費や意識問題発生しますが、これを克服しなければ今後の活動は望めません。

上記には様々な問題が山積の現状ですが、これらを推進克服しなければ今後のJIDブランディングアップは実行できません。JIDブランディングを担う広報活動の今後、皆様の益々のご協力を賜りたいと考えていますのでよろしくお願い申し上げます。

LIVING & DESIGN

すまいのリノベーション
TOTAL INTERIOR

2010/9/29 (水) - 10/2 (土)

国際見本市会場

インテックス大阪

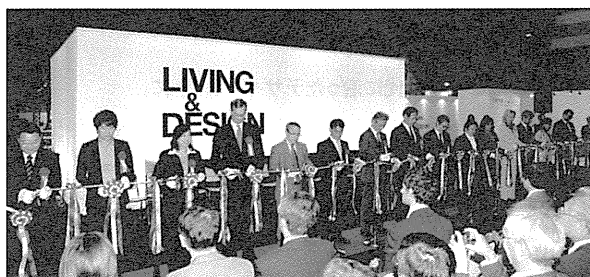
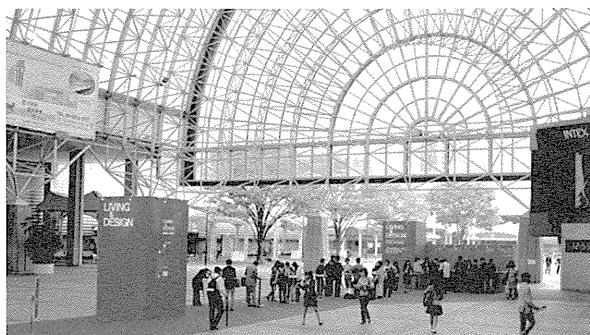
社団法人大阪国際見本市委員会

<http://www.fair.or.jp/living>

「LIVING & DESIGN すまいのリノベーション」報告

副理事長 安藤 眞吾

「LIVING & DESIGN すまいのリノベーション」が国際見本市会場・インテックス大阪で9月29日(水)から10月2日(土)の4日間開催されました。



『住空間を軸に、今までにないビジネスの新しい可能性が広がる国際見本市』がテーマ。大きな反響のあった昨年の第一回目の開催より総展示面積も一回り大きくなり、総合プロデューサーの JID 理事長・喜多俊之氏が提唱する、新しい業界との出会いやコラボレーションから生み出される「住空間のリノベーション」への提案、そして、住まいがより豊かになる「素敵な暮らし」への提案が会場の隅々まで満ち溢れていました。

私も喜多氏からの依頼で企画運営委員として、展示企画やイベント計画をさせていただきましたが、JID のメンバーや JID の関連した展示やセミナーが数多く実現できたことを喜ばしく思います。

以下に、JID 関連の展示及びイベントをご紹介します。



1. 心地よさをつくる「ケア×デザイン」展

(LIVING & DESIGN企画展示)

JIDこころとからだのケアデザイン委員会の企画協力で実現しました。

(詳しくは、小野由記子委員長のレポートをご覧ください。)

2. JIDブース

6月のライフスタイル展(東京)と同じく1小間での展示でした。関西の会員の当番によって運営。数名に新会員への勧誘が出来ました。

3. セミナー

9月29日に川上玲子理事による「北欧に学ぶライフスタイル」、大野晃貴彦会員(関西)による「劇的ビフォーアフター 裏の裏」。10月2日には桑田和子会員(中部)による「これからの住まい方」が会場内のセミナールームで開催されました。どれも満席で大盛況でした。

4. シンポジウム「暮らしのケアを支えるデザイン」

JIDこころとからだのケアデザイン委員会の企画協力で10月2日に開催されました。

(詳しくは、大野美代子委員のレポートをご覧ください。)

最終日は、喜多理事長のはからいで、関東、中部、関西のJID会員総勢25名の交流会が実現。楽しいひとときを過ごしました。

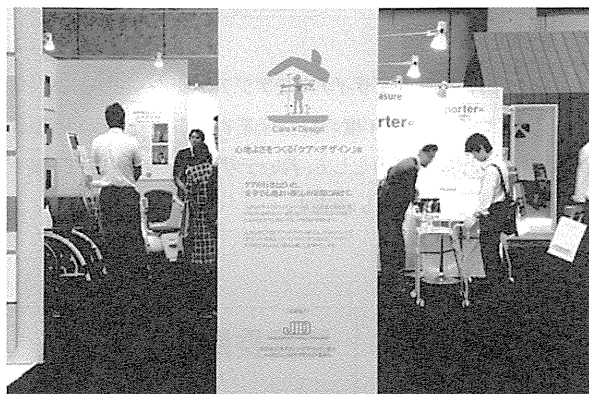
次回の「LIVING & DESIGN」は、2011年9月14日(水)～17日(土)の日程で開催を予定しております。

さらにパワーアップして、関西から「住空間のリノベーション」を盛り上げていきたいと考えていますので、どうぞお楽しみに。

心地よさをつくる 「ケア×デザイン展」

からだところのケアデザイン委員会

委員長 小野 由記子



LIVING & DESIGN 展の一角に設けられた心地よさをつくる「ケア×デザイン展」には、初日朝から大勢の来場者が詰め掛けました。

関東事業支部からだところのケアデザイン委員会は、昨年オゾンで開催した「ケアを支えるデザイン展」のノウハウを活かし企画・運営協力をいたしました。約12m四方のスペースに、参加企業28社、デザイナー5名が、ケアの機能をあたたかなデザイン力で形にしたケアプロダクトの数々をプレゼンテーションしました。家具、テキスタイル、壁紙、車椅子、昇降機、ワゴン、洗面器など住宅設備まで多岐にわたるプロダクトは「ケア×デザイン」をテーマに編集されたのです。

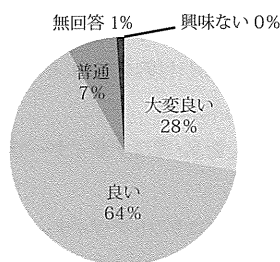
多くの企業の担当者が終日説明に立ち、来場者とのコミュニケーションを図ったことも盛況をもたらした一因でした。福祉機器メーカーからは、通常福祉展などに出席していても出会えない空間づくりのプロや生活者との接点を持てた事が大きいと喜ばれました。また来場者にとっても他ブースのデザインプロダクトと並列してケアデザインに触れられた事が新鮮だったようです。

初日には、喜多理事長に案内された平松大阪市長が立ち寄られ、興味深くご覧になったのち展示されていたドイツ製の昇降機に試乗されるシーンもありました。



また今回は、ケアとデザインに関するアンケートも実施しました。フランスベッド株式会社より提供頂いたノベルティの成果もありましたがアンケートに記入する事でより熱心に展示を見て頂くことになりました。300名のアンケートの結果を一部ご紹介します。

Q1 「ケア×デザイン」展をご覧になって

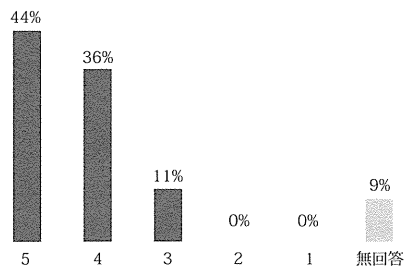


<来場者コメントの一部>

・ケアする道具をより良くデザインする事で抵抗感がなくなると思った・楽しいコンセプトで見えていくワクワクする・時代を反映していると思う・需要が着実に増えてくる分野なのでより人に好まれるデザインであることは必須・高齢者だけでなく、全ての人が心地良く暮らすことが大切だと思う・使いやすいデザインもおしゃれで良かった

Q2 ケアの分野にデザインが貢献できる

(できる～できないの度合いを数字で示しております。)



<来場者コメントの一部>

・高齢化社会にデザインがここまでできるのかという驚きを感じた・介助する側にもデザインは必要!・デザインが良いとワクワクするのでケアに関わる人のモチベーションがUPする・医療器具ではなく日常一般的に使うものとしてさりげないデザインが重要だと思う



シンポジウム 「暮らしのケアを支えるデザイン」

からだところのケアデザイン委員会

副委員長 大野 美代子

今や日本はまぎれもなく高齢社会です。私達全員に訪れてくる高齢期をどのように暮らしていくのか、多様な人々が安全に快適に生活できる「環境」の重要性が認識されるようになり、暮らしのケアを支えるデザインに大きな期待が寄せられています。

今回のシンポジウムは、関連する専門家をお招きして、2010年10月2日の午後、インテックス大阪 国際会議ホールで、LIVING&DESIGN「心地よさをつくるケア×デザイン展」に連動して開催しました。企画・運営は JID からだところのケアデザイン

**LIVING
&
DESIGN**
すまいのリノベーション
TOTAL INTERIOR

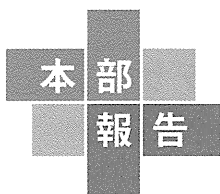
委員会です。

JID理事長 喜多俊之さんの開会ご挨拶に続いて、小野委員長から昨年の出版やケア展のなど活動状況・目的を説明、そしてパネルディスカッションをスタートしました。

コーディネーターは清水忠男さん、製品・環境デザイナーで千葉大学名誉教授、JIDのメンバーです。

パネリストは3人、荒井利春さんはプロダクトデザイナーで金沢美術大学デザイン科教授、塚口明洋さんは建築家で建築の研究室を主宰、そして福田由利さんも建築家でアトリエ・ドウ・フクダ代表をなさっています。

- ・トップバッターは荒井さん、はさみの開発を握力のない友人と共に考え、本人の残存能力を引き出す状況を動きのあるわかりやすい映像で説明、その「引き出すケア」の視点は会場の共感を得ていました。
 - ・塚口さんは老人病院やデイケアセンターなど、暮らしの風景や思い出を大切にした患者参加型の美しい施設を設計。高齢者が住み慣れた街で、できるだけ在宅で普通の生活ができるような社会システムの必要性を感じさせました。
 - ・住宅を設計することの多い福田さんは、高齢者は患者ではないと排泄コーナーを楽しいグルーミングコーナーにするなど、高齢の施主とのやりとりを交えた話に会場を巻き込みました。
- そして質問タイムでは、学生を含む会場内参加者も加わって議論沸騰、清水さんの絶妙な司会で幕を閉じました。



国際委員会

担当理事：岩倉 榮利・酒井 正人
委員長：高田 公平

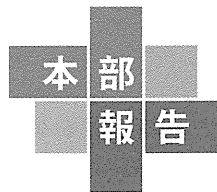
2010年度の活動方針として

本部国際委員会委員長 高田 公平

1. APSDA 北京の JID 代表派遣として、高田委員長と森委員が出席します。
- APSDA 北京に参加を希望される会員の方は自由参加という形になりますが、積極的にご参加いただければと思います。

2. 今後も、IFI、APSDA はアジアエリアでの総会が今年、来年と続きます。喜多理事長のアジアエリアを意識した JID 活動の方針に合致するため、IFI と APSDA の国際活動を継続し、新たな可能性を探ります。また、11月に APSDA の報告会を JID の会議室でおこないます。

3. 日本の若い世代のデザイナーをアジアエリアへ送り込むことを推進していきます。今年度の経済産業省の事業である「JAPAN DESIGN+」上海に、JID として、若いデザイナーを選抜して、事業への参加をうながしていきます。



総務委員会

担当理事：佐藤 健一
委員長：伊藤 公一

JID ビジネスパートナーズエクスプレス

本部総務委員 道明 三千代

“JID ビジネスパートナーズエクスプレス (…………)”
を楽しんでいただけましたか？

2006年に会員メリットとして、“JID ビジネスパートナーズ”を立ち上げて4年が経過しました。

せっかく賛助会員として、ご参加いただいている会員企業と会員の橋渡しを少しでも出来ればとの思いで始めました。

会員の中では、すでに取引をされている方やまだ取引をしたことがない会員などさまざまなメンバーがいらっしゃいます。

また、スタート時点では15社の参加でしたが、3年を経過して12社になりました。

もっと JID の各企業の新しい情報をタイムリーに知っていただく広報活動として、年に3回の予定でE-mailで配信します。

第1回は今年の5月6日にすでに配信しました。第2回は10月中旬を予定。第3回は来年の新年号を計画しています。

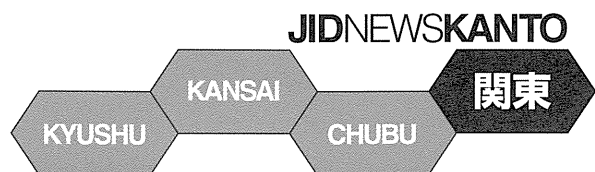
また、参加企業の希望を双方向で出来るだけ反映させたいので、JID ビジネスパートナーズ協議会を6月に開催しました。

12社の広報担当者と連絡先の確認やエクスプレスをいつ発行した方が良いかなど、基本情報から希望事項と課題など、多くの意見交換がありました。

その際に新たに参加希望企業の担当者も参加されて、9月からは3社増えて、スタート時点と同じ15社のエクスプレスニュースを10月に配信予定です。

1回目はプロにお願いしてフォーマットを担当委員と作成、2回目からは総務委員の担当である原委員、尾崎委員が原稿作成を引き継ぐことになっています。

新しいウェーブにご注目下さい。



日本の意匠「温故知新」物語第2話 ＜秘められた意匠の話＞

関東事業支部
総務・組織委員会
委員長 池田 和修

昨年に始まりました Next Design のヒントを感じ取るセミナー企画、日本の意匠「温故知新」物語、今回はその第三弾のご案内です。テーマ＜1300年生きつづける常若のこころ『伊勢の神宮』秘められた意匠の話＞を神宮司庁様ならびに神宮式年造宮庁様のご協力のもと11月5日に開催いたします。

平成17年から第62回式年遷宮の各行事が進行中で平成25年には正遷宮が行われます。1300年前から20年ごとに正殿をはじめ装束、神宝すべてをつくり変える遷宮は、日本伝統文化の技と心の伝承であり、伝統技術の伝承が難しくなってしまった現代、遷宮が我々に語りかける意味とは何か？伊勢神宮に奉職され要職を歴任してこられた矢野憲一氏、今回遷宮における「神宝・装束」調進の責任者の采野武朗氏のお二人を講師にお迎えします。またとないすばらしい機会です皆様是非ご参加ください。

日本の意匠「温故知新」物語第二話

テーマ：1300年生きつづける常若のこころ『伊勢の神宮』秘められた意匠の話

日時：2010年11月5日（金）18時より

場所：東京千駄ヶ谷 津田ホール1階セミナールーム

講師：NPO 法人五十鈴塾 塾長 矢野憲一氏

講師：神宮式年造宮庁神宝装束課 課長 采野武朗氏

ナビゲーター：サイレントグリス株式会社 代表取締役 豊田彰氏

募集定員：100名

JID関東ホームページ URL：http://jid-kanto.org/

「こどもインテリアデザイン教室」 展示予定

関東事業支部
研究委員会
副委員長 小川 和彦

関東研究会では、こどもインテリアデザイン学校の活動の紹介を「JAPANTECH 2010」（東京ビックサイト西展示1・2ホール、会期：11月17日～19日、主催：社団法人日本インテリアファブリック協会）会場にて行います。

こどもインテリアデザイン学校は、昨年度、JT青少年育成に関するNPO助成事業として小学生を対象に開催されました。この教室は、オリジナルの1/20スケールのキットを用いて、「楽しい食事の

空間をデザインしてみよう!」のテーマで、食空間を考え、モデルを作成しました。

会場では、こどもインテリアデザイン学校の活動記録の写真パネル展示はじめ、使用した教材やJIDの紹介パネルを展示します。

（「JAPANTECH2010」公式サイト<http://www.japantech.jp/>）

デザイン職人四方山話

関東事業支部
国際・交流委員会
委員長 星 富士子

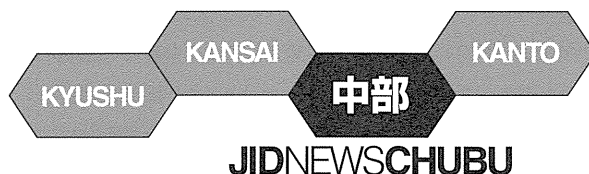
第16回デザイン職人四方山話

11月26日（金）・・・18時30分より

オゾンセミナールームにて

喜多理事長・・・話し手

柏木博氏・・・コーディネーター



ワーロン50's 「新たな可能性」 学生コンペティションのご案内

中部事業支部
支部長 小林 修



今回、中部事業支部では、JID 中部とワーロン社による『ワーロン製品／素材の新たな可能性を探る』学生デザインコンペティションの企画を進めています。ワーロン社が破れない障子紙（ワーロン紙）を開発・発表されてから50年が経過し、新たな用途を目指した製品群が発表され、様々な分野で使用されて

いる現在、光を遮らない幕としての機能から抜け出せない事が限りある用途としての現実であり、デザイナーや設計士のアイデアによる表現に依存する材料に留まっているのが現状です。ワーロン紙誕生50年を迎える本年、枠を超える素材としての展開を学生の若い感性に期待し「新たな可能性」学生コンペティションを開催しアイデアを募集します。その共催案（一般の部）としてJID 所属のデザイナーの企画展ワーロン50'sを同時に開催します。副賞／賞金はありませんが、参考出品形式で各支部の方への参加をお願いしたいと考えています。参加・応募方法詳細は後日正式に案内させていただきますので、多くの方々の参加を期待しています。

喜多理事長を囲む懇談会を開催

関西事業支部

総務・広報委員会

委員長 塚口 眞佐子

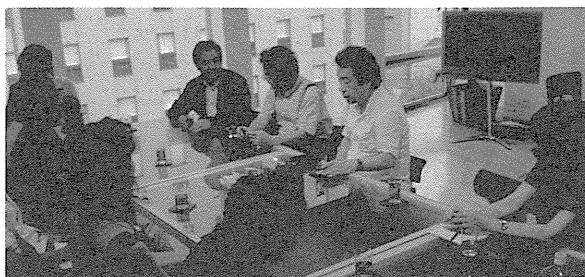
「納戸化をなんとかせなあかん」プロジェクト・大阪 - NPO - (仮称)発足へ

8月3日の夕刻、喜多俊之理事長の IDK デザインをお借りして、今後の関西事業支部の取り組むべき方向性について、意見交換会を開催いたしました。

淀屋橋界隈の御堂筋付近という一等地のアトリエ訪問には、若手会員ならずとも高揚感が高まり、リノベーションされたビル内は NY のロフト感すら漂います。そんな中、参加者全員が理事長のオーラを浴びつつ、思いを共有しあったひとときとなりました。

意見交換会では、副理事長・支部長・役員に若手会員も加わり、今後の方向性が模索される中、喜多理事長からは、中国や韓国のインテリア界の活況を踏まえ、関西をより活性化させるための方策や提言が発せられました。その中で、豊かな日本なのに、住宅が納戸化している現状を憂い、「納戸化をなんとかせなあかん」思いを込め、「美しいインテリア、楽しいインテリア」、への啓蒙活動やメディアを活用する方向が示されました。JID ならではの活動を通して、プレゼンスを高めることが期待されています。

関西支部ではさっそくに、支部長以下、若手会員も交えたプロジェクトチームの立ち上げを、8月の支部運営委員会で決定しました。理事長の「納戸化をなんとかせなあかん」思いを共有し、さらに多彩な意図を込めて、今後の活動を始動させることといたしました。



「瀬戸内国際芸術祭2010」を訪ねて

関西事業支部

八十 常充

猛暑の続く9月17日・18日 関西事業支部 中・四国委員会が企画したアートをめぐる旅 - JIID 交流会 - を行ないました。

瀬戸内の七つの島と高松港周辺を会場とする今までにない大きなスケールのイベント。淡いブルーに霞む島々が会場であり未知の体験にいやでも期待が膨らむ。

香川県在住の大野晃貴彦会員とは岡山駅で合流。まずは犬島へ。最初の仕掛けは、真っ黒な部屋に案内され、その先には四角い窓の光が見える。暗い通路をいくつか巡り、最後の部屋にたどりついて種明かしがあった。

非日常感覚でリセットされた後は、廃墟の精錬所。かつて栄えた工場跡がその歴史と見事なアートとして今存在している。

豊島、男木島を巡り、今夜のお目当て女木島へ。

女木島では香川県在住の井上雅子会員の別荘をお借りしての交流会。海辺に建つ木造家屋2軒をリノベーションされて、白い吹き抜けのギャラリーや4つの和室に(和の)アンティーク家具類が落ち着いたインテリアで私達を迎えてくれた。

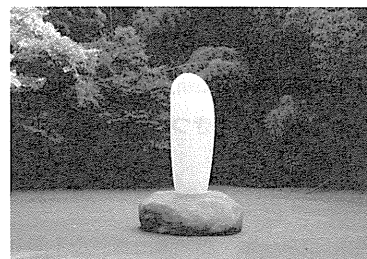
井上さんの手料理で、打ちよせる波の音を聞きながら夜遅くまで楽しみました。

翌19日は直島へ。

まずは地中美術館。建築そのものが強いメッセージを発信していることに感動する。展示物も部屋に絵や彫刻を飾るという概念はなく、展示物を見ながら「空間を感じる」ことに重点が置かれている。時間の経過、季節の移ろいで、そのアートは変化するのであろう。

残る小豆島と大島には、後日時間をつくって…

またお会いしましょう。



福岡例会の開催報告

九州事業支部

支部長 江島 太士

今回の福岡例会は昨年九州産業大学を定年退職されて本格的に家具づくりを始められた山永耕平会員の工房を訪ねました。

8月24日(土)博多駅から車で北九州方面へ約一時間、古代歴史に残る神社仏閣の多い宗像市、その住宅街の奥に自宅を増築した「FDY 家具デザイン研究所」があった。スペース的にそんなに広くはないが、本人ともう一人職人見習い(家具づくりに魅了された若者)の二人でならば十分なスペースである。その二階にオフィスがあり資料収集から設計、事務処理まで。壁面には木工、美術、芸術誌などから国内外のインテリア誌が並ぶ。

まずここでDVDを使ってスクリーンに大学時代の家具製作の紹介が始まる。北欧の家具ハンスウェグナーのシンプルで機能的なデザインなど当時インターナショナルなデザインとして多く世に出、今も尚多くの人に親しまれている家具。それらを学び、独自の和風チェアをデザインし作り上げていた。しかしこの国際的チェアのどれもが機械生産であることを知る。そんな時、より手作りで歴史と人間味ある家具としてイギリスのウィンザーチェアに強くひかれ、ついには渡英して製作作業を通して工法、技法を学ぶ。今、ウィンザーの心をより熱く伝えようとしている日本国内唯一の家具工房ではないかと思われます。

その代表作がキャプテンチェアcc-01で オリジナルカタログにも載っていました。

その作品に腰掛けて説明を聞きながらウィンザーチェアの歴史的な手作りの感触を味わいました。

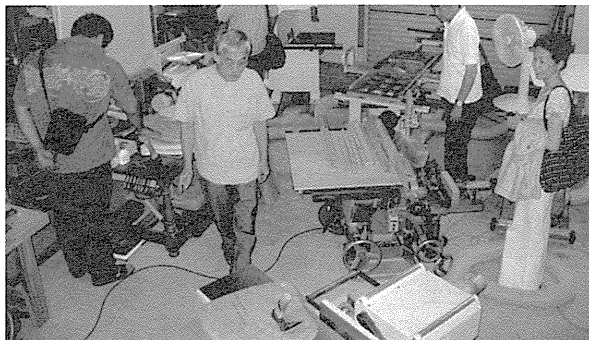


工房へ下りると、手作りにこだわる山永さんの思いがノミや手鉋など刃物の手入れにも見られました。ここで創り出されるこれからの日本のウィンザーチェアをはじめ一連の、ムナカタチェアが和風チェアの歴史づくりの新たな1ページとなりつつある。

日々の木との戦いにエールを送りたい。

工房見学が終って住まいの方を案内していただいたが玄関から部屋に至るまでこれまで製作された様々な家具が並んでいました。また普段見ることのないキコリの大きな鋸や手斧から、ヨーロッパの初めて見るアール調整のできる鉋など見る事が出来ました。

今回写真の添付が少ないですが、興味を持たれた方は一度工房を訪ねてみて下さい。カタログの中から自分に合った椅子をマイチェアとして注文製作してもらうことができます。



JID

の
新
た
な
門
出
に

51
年
目
を
迎
え
て

九州事業支部(沖縄在住) 赤嶺 剛

インテリアデザインを生業(なりわい)とするにあたり、常に考える事がある。最良の答えは何なのかを・・・! あらゆる情報や新素材が時代の流れと共に生み出される。飲食店を中心とした設計・施工を手掛け、どの様な方向でいけば施主が商売繁盛出来るのか? を常に自問自答する。流行(モード)を追い3~5年で店舗展開を仕掛けるのか。時と共に年輪を重ね、古ければ古い程、女房と同じで息の長い味のある店を創ればいいのか。沖縄は廃業率も高いが、開業率も高い。当然、仕事量は有るが所得が低いので金額にシビアだ。毎年、趣味である沖釣りに明けくれる日々を創造するが、毎日が寝る間も惜しむほど忙しい。・・・癒しの島沖縄よ、どこへ行った。日々楽しみながら精進している今日この頃である。



事務局からの
お知らせ

新会員 紹介 正会員

①会員名 ②会員番号(支部) ③推薦者 ④勤務先・事務所 ⑤自宅



① 玉井 恵里子
たまい えりこ

② 1306(関東事業支部)
③ 小野由記子

- ④ 株式会社タピエ
〒151-0053 東京都渋谷区代々木4-28-8代々木村田マンション207
TEL:03-3378-6278 FAX:03-3378-6248
Email:tapietamai@xvf.biglobe.ne.jp
- ⑤ 〒606-0957 京都府京都市左京区松ヶ崎小脇町28-18
TEL:090-3465-8681 FAX:075-791-2460
Email:tapietamai@xvf.biglobe.ne.jp



① 宮地 敦子
みやち あつこ

② 1307(中部事業支部)
③ 安藤清・小林修

- ④ 株式会社H E システム
〒460-0007 愛知県名古屋市中区新栄3-1-19
TEL:052-251-6138 FAX:052-251-6139
Email:atsuko55@dream.com
- ⑤ 〒467-0049 名古屋市瑞穂区下山町2-14-1



① 米谷 ひろし
よねや ひろし

② 1308(関東事業支部)
③ 喜多俊之・川上玲子

- ④ TONERICO,INC
〒150-0001 渋谷区神宮前6-18-2グランドマンション原宿902
TEL:03-5468-0608 FAX:03-5468-0609
Email:yoneya@tonerico-inc.com
- ⑤ 〒151-0053 渋谷区代々木3-31-12代々木ハイツ608
TEL:03-5333-3477 FAX:03-5333-3477

新会員 紹介 賛助会員

コンフォート株式会社 会員番号3214
〒108-0071 東京都港区白金台3-2-10白金台ビル
TEL:03-5798-3900 FAX:03-5798-3901
担当者:代表取締役 佐藤 和也
Email:kazuya@comforthousing.co.jp

株式会社谷口商会 会員番号3215
〒540-0011 大阪市中央区農人橋2-1-10大阪建築会館
TEL:06-4790-0232 FAX:06-4790-0332
担当者:代表取締役 谷口 東郷

東京ブラインド工業株式会社 会員番号3216
〒108-0072 東京都港区白金3-9-15
TEL:03-3443-7771 FAX:03-3443-7775
担当者:代表取締役 櫻井 武志
Email:hiro@tokyo-blinds.co.jp

訃報

白石 勝彦 氏(関東事業支部正会員)
JID 元理事長(1972年~1978年)
平成22年10月3日逝去 享年84歳
謹んでご冥福をお祈りいたします

JID
news

企画・編集:本部広報委員会

あとがき

先般、大先輩会員:泉 修二さんのお宅で膨大な過去のJID Newsを手に入れました。その内容は濃厚かつ精力的、会員による研究発表や新デザイン情報が満載、当時の協会活動の存在感を痛感。「ああ、この資料が、室内設計資料図書や関連図書のベースになったんだなあ!」と、業界情報・資料の礎となった協会活動・情報がそこにありました。

時も経ちJID Newsは、今回249号、発行部数550、全国各地に在籍する協会会員にとって大切な情報源として永きに渡る協会誌。ただ、「デザイン」という領域が一般的になった今、内部的な情報だけでは物足りなく、努めて内容充実を図れば、現状の発行部数、発行ルートではあまりにも勿体ない存在であることは歴然です。

現在、JID広報委員会は、JIDブランディングとして『広報(PR=Public Relations)活動の再構築/エンドユーザー(国内外部)と会員(内部)が繋がる広報活動ヘシフト』をスローガンに活動始動体制を整えています。

より多くの人へJID活動を伝えるには、広報活動の一部であるJID Newsの見直しも必至です。今後は、会員皆様のご意見もお伺いしながら「JIDホームページ(Web site)と連動するJID News」を目指したいと考えています。その間、従来運営を予定していますが、活動情報・ご意見・ご感想がありましたら、当広報委員会までご連絡ください。全国の皆様からのお声をこころからお持ちしています。

石川 尚

No.249

発行日:平成22年9月30日